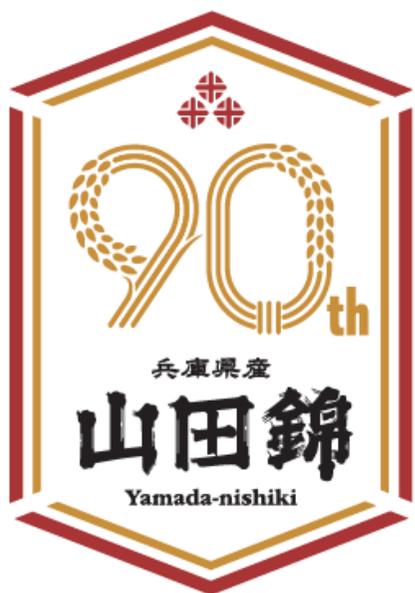


## 山田錦『生誕90周年』記念事業について

昭和11年2月27日に、酒米の王者である山田錦は県告示で品種として認定されてから90年目を迎えました。兵庫県では、これを記念して全国農業協同組合連合会兵庫県本部および兵庫県酒米振興会と連携し、令和8年度の1年を通じて90周年記念事業を実施します。

### 【90周年記念事業】

時期	事業予定内容	対象	主体
4月	ひょうごの酒米・日本酒テロワール事業 フランスの日本酒コンクールKuraMaster審査会 及びベルギー日本大使館にて県産山田錦の優位 性を生産者自らPRするセミナーを開催	欧州のソム リエ、日本 酒愛好家	ひょうごの酒 米・酒海外戦 略推進協議会
夏	90周年祝賀交流会・県産山田錦産地セミナー 全国の酒蔵や酒販店を対象に祝賀会を開催。併せ て、県酒米試験地や生産ほ場を見学するセミナー を開催し高品質な山田錦生産管理体制をPR	生産者、 酒蔵、 酒販店	県、 JAグループ、 酒造組合
9月	山田錦列車の運行 JR加古川線貸切列車にて「県産山田錦で醸した 日本酒」×北播磨の「食」×「山田錦列車」と のコラボ。インフルエンサー等によりSNSで情報発信	一般消費者、 インフエン サー	北播磨県民局
冬	山田錦生誕90周年記念試飲イベント 一般消費者向けに県産山田錦を使用した日本酒 試飲イベントを開催することで県産山田錦を使 った高品質な日本酒をPRするイベントを開催	一般消費者、 酒販店	県、 JAグループ、 酒造組合



〈90周年記念ロゴ〉

## < 参考資料 >

### 山田錦90年のあゆみ

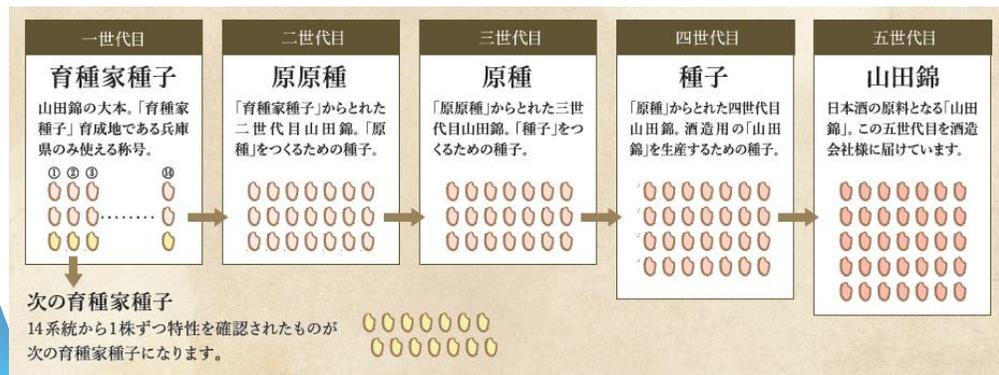
母親「山田穂(やまだぼ)」父親「短稈渡船(たんかんわたりぶね)」の人工交配により、兵庫県立農事試験場（当時の明石市）および酒米試験地で誕生しました。

#### おもな出来事

1923（大正12）年	山田穂と短稈渡船を人工交配。
1928（昭和3）年	全国で唯一の試験研究機関である兵庫県立酒造米試験地（現在の酒米試験地）設立。
1936（昭和11）年	2月27日「山田錦」誕生（兵庫県報第1065号に告示され、原種（現在の奨励品種）として認定）。
1963（昭和38）年	作付面積最大（7,840ha）となる。
1965（昭和40）年代	山田錦以外の品種の需要の高まりにより作付面積が減少傾向。昭和59年1,944haまで減少。
1985（昭和60）年代	吟醸酒ブームにより山田錦の需要が劇的に増加し、兵庫県産山田錦がブランド化。
2011（平成23）年	グレードアップ兵庫県産山田錦（ふるい目2.00mmから2.05mmへの改革）による需要拡大。
2020（令和2）年	コロナ禍による需要の縮小。
2025（令和7）年	「兵庫の酒米『山田錦』生産システム」が日本農業遺産に認定。令和7年栽培面積4,697ha

### 兵庫県だけが持つ育種家種子

本県だけがもつ育種家種子14系統を育成機関が厳格に管理することにより本来の山田錦の特性を維持。種子生産の各段階で行政、JA、種子組合による厳しい審査を実施し、合格した種子だけが産地へ配布されることにより、山田錦本来の特長が保たれている。



### 県産山田錦の特長

1. 精米がしやすい  
**大粒で線状に心白が入っている**ので、精米時に砕けにくく、高精白が可能で均一な麴をつくることができる。
2. 雑味が少ない  
**タンパク質などの雑味の原因となる成分が少ない**ため、まろやかで味わいのある日本酒ができる。
3. 麴が作りやすい  
**心白発現率が高く、こうじ菌が中心まで入りやすい**ため、良質な麴を造ることができます。
4. 醪（もろみ）の中で溶けやすい  
**山田錦の米は溶けやすく発酵が進む**ので低温でじっくりと時間をかけて発酵させる吟醸造りに向いている。